

化学療法指示書

CDDP+PEM +Bmab (ショートハイドレーション) 3~4週毎

患者ID					適応疾患
患者氏名			指示医師	* 肺腺癌	
身長	cm	体重	kg	体表面積	m ²

血清Cr: mg/dl Ccr: ml/min(Cockcroft-Gault)

CDDP(cisplatin、シスプラチン) 75mg/m² = () mg/body day1
 PEM(pemetrexed、ペメトレキセド) 500mg/m² = () mg/body day1
 Bmab (bevacizumab、ベバシズマブBS) 15mg/kg = () mg/body day1

*** 3~4週毎投薬**

※内服薬
 Day1: アプレピタント(125mg) 1cap ルート確保時に
 Day2,3: アプレピタント(80mg) 1cap 朝食後
 Day2~4: デカドロン4mg 2錠 朝食後

コース目 月 日 (day1)

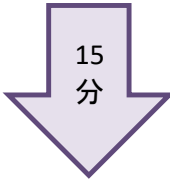
*** 点滴前に水分(水、茶など)1000mL摂取する**

生理食塩液100mL ルート確保・フラッシュ用

ルート確保時に
 アプレピタント(125mg) 1Cap内服

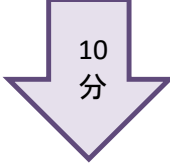
[:]

本体① パロノセトロン(0.75mg) 1袋 デキサート(6.6mg) 1V
--



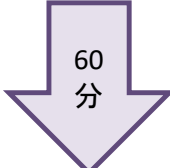
[:]

本体② 生理食塩液 100mL ペメトレキセド mg (500mg/m ²)



[:]

本体③ ソリタT1号輸液 500mL アスパラカリウム注10ml 1A 硫酸マグネシウム補正液 8mL
--



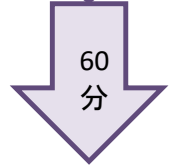
[:]

本体④ マンニトールS300ml 1本



[:]

本体⑤ 生理食塩液 250mL シスプラチン mg (75mg/m ²)



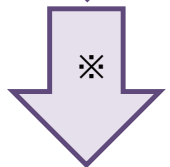
[:]

本体⑥ ソリタT1号輸液 500mL アスパラカリウム注10ml 1A



[:]

本体⑦ 生理食塩液 100mL ベバシズマブBS mg (15mg/kg)
--



※下記注意参照
 初回90分
 2回目60分
 3回目以降30分

(総量 100mL とする)

〈ビタミンB12投与〉

ペムトレキセド初回投与の1週間以上前にビタミンB12 1mg(メチコパール注(500 μ g)2A)筋注
その後ペムトレキセド最終投与日から22日目まで9週毎に筋注つづける

〈葉酸投与〉

ペムトレキセド初回投与の1週間以上前より葉酸1日1回0.5mg(パンピタン末1g分1朝食後)を連日経口投与
その後ペムトレキセド最終投与日から22日目まで連日経口投与つづける

◆投与開始基準

第1コースday1開始基準	第2コース以降day1開始基準	第2コース以降の投与量減量基準(血液毒性)		
PS:0-1	PS:0-1		MTA/CDDP(mg/rf)	
NEU \geq 2000	NEU \geq 2000	NEU<500及び、PLT \geq 50,000	前回の75%	
Hb: \geq 9.0		NEUに関わらず、PLT \leq 50,000	前回の50%	
PLT: \geq 100000	PLT: \geq 100000			
AST/ALT \leq 100/112(肝臓に腫瘍なし)	AST/ALT \leq 100/112(肝臓に腫瘍なし)	第2コース以降の投与量減量基準(非血液毒性)		
AST/ALT \leq 200/225(肝臓に腫瘍あり)	AST/ALT \leq 200/225(肝臓に腫瘍あり)			
クレアチニンが正常値以下	クレアチニンが正常値以下		MTA(mg/rf)	CDDP(mg/rf)
予測クレアチニン・クリアランス又は、 24時間クレアチニンクリアランス \geq 45mL/min	予測クレアチニン・クリアランス又は、 24時間クレアチニンクリアランス \geq 45mL/min	下痢 \geq G3又は 入院を要する下痢	前回の75%	前回の75%
SpO ₂ \geq 92%	非血液毒性 \leq G2(末梢神経障害 \leq G1)	粘膜炎以外 \geq G3	前回の75%	前回の75%
血衰がない	血衰がない			
蛋白尿 \leq +1	下記参照			
PT-INR \leq 1.5				

*蛋白尿

Grade	症状	対応
Grade 4	ネフローゼ症候群	CDDP /PTX/Bev すべての投与を中止
Grade 3	4+または、>3.5g/24h	Grade1以下に回復するまで CDDP /PTX/Bev すべてを休業。 回復後、次コースより CDDP /PTX/Bev すべて同一用量で再開。
Grade 2	2+～3+または、1.0～3.5g/24h	Grade1以下に回復するまで Bev を休業。
Grade 1	1+または、0.15～1.0g/24h	投与継続、モニタリング継続

*ヘパシマブBSの投与について

ヘパシマブBSは初回投与時90分かけて点滴静注。

忍容性良好であれば2回目は60分、3回目以降は30分かけて投与する。

ただし、ショック、アナフィラキシー様症状が認められた場合にはヘパシマブBSの投与は中止とする。

infusion reaction(蕁麻疹、呼吸困難、口唇浮腫、咽頭浮腫など)を発現した場合には、次回投与時30分延長して投与とする(最大90分まで)。

◆嘔気時:(開始後28日目)まで 適宜下記を投与

1)グラニセトロン注(3mg/50mL) 1袋+メトクロプラミド注(10mg) 1A 点滴静注(30分) 1日2回まで

2)生食100mL+デキサート(6.6mg) 1A+メトクロプラミド注(10mg) 1A 点滴静注(60分) 1日1回まで